**令和６年度第１回 柏市緑政審議会会議録**

**１ 開催日時** 令和７年３月２６日（水）　午後２時から４時まで

**２ 開催場所**柏市役所本庁舎５階　第５第６委員会室

**３ 出席者（敬称略）**　（委員）

　　落合会長，近江副会長，小川委員，坂巻委員，大久保委員，北田委員，鈴木委員

　（事務局）
　　坂齊都市部長，浅野公園緑地課長，同課永野副参事，高橋主幹他

**５ 報告事項**
　 あけぼの山公園及びあけぼの山農業公園の現状と今後について

**６ 傍聴**　 １名

**７ 主な内容**

**議題１　柏市全体，県内・県外といった広い視点からみたあけぼの山に関する御意見（マクロ視点）**

**〇鈴木委員**

　現在の来園者は市内・県内の方々が大半を占めており，今後はより広域からの来訪者を呼び込むために，公園を訪れる目的を明確にする必要がある。例えば，花の鑑賞に加えて，飲食や体験など，来園者が消費行動を起こすことを意識した施設整備が求められる。併せて，観光による経済波及効果を見据え，公園の維持管理費にも貢献できるような収益モデルの構築が重要でないか。

**〇高橋主幹（公園緑地課）**

　収益性の確保は，民間事業者の参入を促すうえで極めて重要な要素である。現時点では具体的なコンテンツは未確定であるが，市の基本構想である「施策10」に基づき，今後は民間事業者との連携を積極的に進めていく。また，これまでの取組が市内中心であったことを踏まえ，市外への展開も視野に入れて検討していく。

**〇永野副参事（公園緑地課）**

　現在，駐車場やアクセス道路などの来園者向けインフラが十分に整備されていない。そのため，大規模な集客施策をいきなり実施するのではなく，まずは閑散期の利用促進を図りつつ，段階的に整備を進める中で，来園者の誘導や情報発信を行っていく戦略が重要であると考える。

**〇鈴木委員**

　花の植栽を担っている農家は高齢化が進んでいる。今後5年から10年の間に，営農体制の大きな転換期が訪れることは避けられず，これに対する早急な対応が求められる。現在は花の供給が継続しているものの，将来的に担い手が不足すれば，構想そのものが立ち行かなくなるおそれもある。

**〇落合会長**

　施策16は公園経営の重要項目であり，施策10と連携して早急に仕組みを構築すべきと認識している。この仕組みづくりについては，早急に進めるべきであると考える。

**○大久保委員**

　御説明いただいた内容は，問題点として十分認識している。一方で，本公園の特色を他の公園と比較して明確にする必要があると考えている。担い手の高齢化の進行を実感しており，現行のサポート体制には限界がある。施設の利用状況についても，過去のアスレチック施設など，斜面地が活用されていない現状もある。傾斜地には円形劇場のような施設を設けるなど，新たな活用策が必要であると考える。また，季節毎の自然を活かしたイベント開催により，公園の魅力や来園者の満足度を高めることができる。こうした取り組みを通じて，マネジメント面や文化振興面でも成果が期待される。

**○北田委員**

　御説明いただいた三つの視点での議論について，この方向性で継続してよいか再確認したい。「見ること・楽しむこと」が魅力を生むという観点に加え，「食べる・遊ぶ・泊まる・情報」などの要素が不足しており，これらの充実が他公園との差別化に不可欠と考える。また，大久保委員の指摘にあるように，地形特性を活かした花の配置や景観形成も重要であり，あけぼの山においても，ひたち海浜公園や昭和記念公園のような事例を参考に，現在の地形でも魅力的な演出が可能ではと考えている。

**○落合会長**

　北田委員の御指摘は，今後策定されるランドスケープ計画に反映すべき重要な御意見と理解している。この計画は，全体の骨格を形成する基盤として，最優先で取り組むべき課題である。今後の整備・活用の指針となるため，事務局においては計画策定を確実かつ着実に進めていただきたい。

**○坂巻委員**

　本日の報告事項に対する所見として，県内外の視点を踏まえた内容は非常に有意義であると感じている。あけぼの山公園整備当初は農地が広がる地域であったが，交通混雑の課題があり，現在も十分な解消には至っていない。地域活性化には広域的な交通インフラの見直しが不可欠であり，特にアクセス性の向上が求められる。また，農業従事者の高齢化や担い手不足を背景に，土地の一体的活用と公園面積の確保が今後の重要課題と考えている。

**○小川委員**

　インバウンドに関して，今後どのように進めていくのか，考えをお聞きしたい。

**○坂齊部長（都市部長）**

　柏は，様々な施設が立地しており，例えば最終日の時間調整の際に商業施設等で過ごすことが多いと考えられる。企業としてもその可能性を認識しており，空港近接の立地を活かして将来的に来客対応策を検討していきたいと考えている。

**○小川委員**

　商工観光課と連携し，柏市をハブ的な場としての活用を検討していただきたい。柏の葉には外国人や研究者が多く宿泊しており，あけぼの山公園への誘致提案が考えられる。柏市は年間49万人の宿泊実績があり，県内6位の宿泊者数を活用して誘客の仕組み整備が重要であると感じている。

**〇近江副会長**

　私は造園を専門としており，「回遊性がない」「使われていない部分がある」点について述べたい。柏市では自殺者の急増が深刻で，利用者が少ない場所にも必要とする人がいる。賑やかな場所だけが適切とは限らず，多様な環境こそあけぼの山公園の魅力である。この多様性を大切にすべきだと考える。また観光振興には，既存の観光コンテンツから誘客する方法と，新たなニッチを開拓する方法があるが，公園の方向性や競合施設との関係を踏まえ，どのように進めるか伺いたい。

**○浅野課長（公園緑地課）**

　本公園の方向性については，観光を目的に花を楽しんでいただき，県外や近隣市町村からの観光客誘致を目指している。これにより柏市のPRと地域活性化を図る方針である。いばらきフラワーパーク，船橋アンデルセン公園，足利フラワーパークなども視察しているが，今までなかったものを提供する視点も重視しつつ，頂いた御意見を踏まえ今後も検討していく。

**○落合会長**

　「観光」との説明があったが，本公園の年間来園者数やピーク時の人数について，どう考えているか。具体的な数値が資料に記載されておらず，根拠となるデータがあるかを確認したい。来園者数によって必要な設備や施設の規模が変わるため，想定している人数を教えてほしい。

**○高橋主幹（公園緑地課）**

　平成20年頃に約70万人でピークを迎えた本公園の来園者数は，その後減少し現在は約50万人前後で推移している。将来的な具体的数値は未定であるが，現状の入園者数の維持を基本としていきたいと考えている。一方で，季節変動があり，春秋に来園者が集中しているため，他の季節の魅力向上や利用の少ない施設への誘導を進め，全体の来園者数増加を目指したい。

**○落合会長**

　今後の取り組みが順調に進んだ場合，あけぼの山公園自体の拡張についても検討する方向性があるかどうかについてもお伺いしたい。

**○高橋主幹（公園緑地課）**

　公園全体の一括リニューアルには多大な費用と時間が必要であるため，まずは人が集まる花畑周辺の主要エリアから着手したいと考えている。民間の協力を得て魅力向上を図り，運営の過程で出てくる改善点を踏まえつつ，今後，必要に応じて公園の拡張も検討していく必要があると考えている。

**○落合会長**

　今後，農業振興地域の除外と農地買収を進める中で，対象外の農家から不満の声が上がる可能性がある。その際，今後の拡大方針をどう説明するかが住民の理解に大きく影響すると考えられる。まずは最初の10年間を着実に取り組み，夢のある形で計画を成功させてほしい。

**○浅野課長（公園緑地課）**

　行動計画では「施策14」が該当するが，花畑周辺のみを都市計画決定し，段階的に整備する考えと，初めから広域に都市計画決定を行う考えがある。それぞれに利点と課題があり，現時点では最終的な方針は決まっていない，検討中としか申し上げられないが，農用地との関係もあるので，慎重に検討してまいりたい。

　逆に委員の皆様からも御意見いただきたい。

**〇坂巻委員**

　報告事項では新規就農者のニーズが高く，農業政策が進んでいるように見受けられるが，初期投資の大きさや米中心の作付け状況が課題とされている。今後は，就農支援の具体策や他作物への展開など農業の多角化に向けた明確な方針が必要であるが，担当部署が異なるが，考えをお聞きしたい。

**○高橋主幹（公園緑地課）**

　新規就農希望者は多いものの，農業を実践する「場」の提供や制度とのマッチングがうまく進まず，実現に至らないケースが見られ，関係機関の連携が十分でないと懇談会委員から話があった。

この点については，農政部局の所管になるが，設備投資に対する補助金や農地のマッチングなどの市による一定の支援は進めていると認識している。しかし，制度面や現場の関係で，結果的に実現に至っていないケースもあるのではないかと考えている。

**○坂巻委員**

　農業未経験者が独立就農するには，主力作物に応じた適切な耕作面積や機械設備の確保が必要であり，初期投資も高額になる。そのため，就農者の目指す事業規模に応じた段階的な支援策が求められる。また，先進農家の事例を参考に，行政による実効性ある支援の検討が必要とされる。さらに，あけぼの山公園整備に際しては，周辺農家との関係にも配慮し，公園と農地の共存に向けた具体的検討を期待したい。

**○落合会長**

　農業振興地域からの農地除外には約1年を要するなど，手続きが煩雑で進行には時間がかかるのが現実である。段階的な拡大も一案だが，効率的な用地取得と計画的な推進が不可欠である。過去の懇談会でも進捗の遅れを指摘する声があり，今回の計画に基づき，確実かつ着実に事業を進めることを強く求めたい。

**議題２　公園あるいは樹木，花・植物といった緑に関する視点からの御意見**

**○大久保委員**

　今後の指定管理者制度に基づく公園運営について，業者選定時の判断基準や選定プロセスに関して質問したい。運営者の選定においては，市が基本計画に沿った方針を提示したうえで業者に提案を求めるのか，あるいは業者が独自に公園運営の提案を行い，それをもとに審査が進められるのか，選定プロセスはどうなるのか。

**○高橋主幹（公園緑地課）**

　今回，このような構想を策定した後は，民間事業者を公募する際にも，この構想に基づいた提案をいただきたいと考えている。したがって，公募において，まったく異なる方向性の提案があった場合，それを採用するということはないと考えている。つまり，本構想に沿った形で御提案をいただくことが前提となる。

**議題３　今後のあけぼの山に関する期待**

**○近江副会長**

　学生がトマト農家にヒアリングを行った際，公園での販売だけでは「場所を変えただけ」になってしまうとの御意見があった。6次産業化のように，加工やレストランなどを通じた地産地消の広がりが求められている。若い就農者が新しい挑戦をしやすくするためにも，老朽化した加工実習館や温室を有効活用し，挑戦の場として検討してはどうかと考える。農業と都市が混在している「緑園都市」という考えの中で，柏市らしい特色を活かした活用も検討いただきたい。

**○北田委員**

　現在の構想にすべての既存施策が網羅されていないことは理解しているが，国や県，市の上位計画，特に環境や公園に関する方針をどのように反映しているのかが気になる。例えば柏市は2050年のCO₂排出ゼロを目指しており，公園がその中で果たす役割や国の「グリーンインフラ」，「生物多様性」などの政策との関係性が明記されていれば，構想に一層の説得力が加わるのではないか。

**○高橋主幹（公園緑地課）**

　関連計画については，今回の構想では省略しているが，柏市の最上位計画である総合計画では花や緑を通じた豊かな市民生活の実現を掲げている。今後，そうした上位計画の方針を踏まえ，公園の在り方を整理し，構想との関係性についても改めて明確にしていいきたい。

**○坂齊部長（都市部）**

　御指摘の通り，行政計画を策定する際には，総合計画を最上位に位置づけ，個別計画がその下に連なる構造を模式図で示すのが一般的である。しかし，今回の報告資料ではそうした計画体系の図が添付されておらず，全体の中で本構想がどの位置にあるのかが少し分かりづらい印象となっている。

**○鈴木委員**

　市民の豊かな生活の実現がビジョンとのことですが，公園規模や観光とのバランスがやや見えにくいと感じる。観光が進みすぎると市民が使いづらくなる懸念もある。また，子育て世代の視点から，花だけでなく，体験型の仕組みが滞在時間や満足度，経済効果の向上に重要だと考える。例えば，先ほどの話にあったいばらきフラワーパークのように現地に行けば何等かのワークショップに参加できる。これはお金を落とされるという点もあり，体験は重要であると感じる。

　体験型の仕組みは，大きな設備投資も必要なく，民間ノウハウを活かした体験プログラムにより，より質の高い公園運営が可能となるため，今後の展開においては重要になるのではないか。

**○坂巻委員**

　今回の計画における整備について，自然の地形，例えば斜面を活かすことが非常に重要だと感じている。桜山の急斜面などをうまく活用できれば良いし，計画に含まれていない斜面の下部も使えればさらに効果的だと思う。また，こうした地形の整備に対して国の補助制度が活用できる可能性もあるのではないか。

**〇近江副会長**

　施設を整備しても利用者がいなければ意味がない。鈴木委員の御発言もあったように，まずはソフト面の充実が先決であり，それを踏まえて初めて適切なハードの在り方が見えてくると考える。

**〇坂巻委員**

先ほど6次産業化の話があったが，公園南側ではそのような取組は少ない。一方，沼南地区の「道の駅」では，ブルーベリーのジャムやトマトを使ったケチャップなどの加工品が販売されており，店舗を構えて味噌を手づくりしている方もいる。ただし，原料は購入品であり，生産・加工・販売を一貫して行う本来の6次産業の形とは少し異なる印象を受けている。

**〇高橋主幹（公園緑地課）**

　現時点では規模は小さいものの，公園周辺では観光農園として取り組まれている方がおり，そこで収穫された農産物を活用したスイーツを販売している。こうした地産のスイーツ販売は常時ではなく，イベントや特定の時期に行っている。

**〇落合会長**

　今後の予定について確認したい。この将来構想について，今後パブリックコメントの実施が予定されているのか。また，「オーソライズされた」とは具体的にどのような状態を指すのか，議会の承認が必要なのか，他の手続きがあるのかもお聞きしたい。正式に認められない場合，用地計画の承認に影響が出るのかなど，今後のスケジュールについて御説明いただきたい。

**〇高橋主幹（公園緑地課）**

　本構想の策定にあたってはパブリックコメントを実施し，市民の御意見を反映したうえで構想策定を進めたい。ただし，この構想策定は議会議決事項とはなっていない。そのため，市の内部で正式に意思決定した後，公表する形となる。

　構想策定後は記載された行動計画に基づき，国の補助制度や他計画との連携も視野に入れながら，段階的に事業の具体化を進めていく方針である。

**〇落合会長**

　聞き漏らしや御質問がございましたら，どうぞお気軽にお申し出いただきたい。特に御発言がないようでしたら，これにて本日の議事を終了する。

　本日は御多用のところ御出席いただき，誠にありがとうございました。